

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 東書 | 書名 | 新しい理科 |
|---------------------------|--|----|-------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習の前と後で自分がどのように変わったかがわかるコーナーとして、「学ぶ前の私」「学んだ後の私」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方が例示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、「まとめ」の後に「次の問題を見つけよう」が設けられえている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「かんきょうマーク」が表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「学びを生かして深めよう」では、SDGsが取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第6学年の「あんなところに理科!こんなところにも理科!」では、職業とのつながりについて掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p><<教科・種目共通部分>></p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、「レベルアップ理科の力」では、他の児童の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の例が示されている。 □ 各学年の巻末に、「算数科で学んだことを活用しよう」が設定されている。また、「学んだことを使おう」では、他学年の学習やくらし等とのつながりが示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、題材の冒頭に、対話を通して思考を広げたり深めたりしていく様子がイラストや写真で例示されている。 □ 伝統文化に関して、第5学年では、「夕焼け空は明日晴れ」という日本の昔から伝わることわざが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、単元の冒頭で、遊びやマンガの読み物を通して体験活動を促す場面が設定されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、巻末の「何がわかったかな」で、第6学年で学んだ内容に合わせて「中学校1年で学習すること」が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気と私たちのくらし」の単元の中で、「プログラミングをやってみよう」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、巻末にこれまで学習した器具等の使い方が順序立てて示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各単元の冒頭の「レッツスタート!」ではこれから学ぶ内容が示されている。また、問題解決のプロセスが紙面の端に「学びのライン」として示されている。 <p><<各教科・種目独自の観点>></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方が単元内に示されている。また、巻末の器具の使い方や理科室の使い方は、発達の段階に応じた内容が示されている。 □ 巻頭の「理科の学び方」や、単元内の「レベルアップ理科の力」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が示されている。 □ 単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。一定時間内に指導できる分量で、時数にゆとりをもって設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第6学年では、巻末に人体模型の工作の付録がある。 □ 判型はA4であり、写真、図、文章等が大きく記載されている。各単元の導入のページでは、本文のすべての漢字にルビが施されている。 | | |

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 大日本 | 書名 | たのしい理科 |
|---------------------------|--|----|--------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習問題について「わかったこと」や「結論」に、内容の説明と結論とが区別して示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、問題解決のプロセスの中で、各学年で重点をおいて育成すべき問題解決の力が★マークを使って示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元末に学習した内容と身近な生活とのかかわりを考える「学んだことを生かそう」が設けられている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第6学年の「生物と地球環境」など、持続可能な社会に関連する場面では「ESD」マークが表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、英語マークを活用し、海外や地球規模の情報・資料など国際理解を深める内容が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「理科のたまてばこ」では、「理科としごと」マークが設定されており、理科に関係する職業の話題が掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p><<教科・種目共通部分>></p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決の場面では、他の児童の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の例が示されている。 □ 第4学年では、「算数で学ぶこと」で、折れ線グラフの表し方や読み方について示されている。第3学年では、「生活科とのつながり」でおもちゃづくりが示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、学習問題を見つける場面や、「考えよう」「考察」の場面では、キャラクターによる対話の例が示されている。 □ 伝統文化に関して、「伝統マーク」が設定されている。第6学年では、「りかのたまてばこ」で昔からの鉄づくりが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第6学年では、巻末に「科学館・博物館に行ってみよう」のコーナーが設けられている。また、各学年の裏表紙にはジオパークが掲載されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、巻末の「中学生になったら…」で、中学校第1学年で学習する内容が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「私たちの生活と電気」の単元の中で、「プログラミングを体験してみよう！」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、すべての児童にとって学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスが示されている。また、ページの上端に問題解決のプロセスが色分けして示されている。 <p><<各教科・種目独自の観点>></p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方は、巻末に掲載されており、実験のページには巻末のページに導くページ数が書かれている。 □ 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスの中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が★マークとともに示されている。 □ 学習問題とは別の自然の事物や現象にあてはめることで、学んだことを生かす場面が設定されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。第5学年では「災害に備えようブック」など、各学年の巻末に学習内容に応じた付録がある。 □ 「問題」や「わかったこと」「結論」部分等は、それぞれ色が塗られている。写真や図版は角丸で切られている。 | | |

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 学号 | 書名 | みんなと学ぶ小学校理科 |
|---------------------------|---|----|-------------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学びを振り返り、自分の成長をわかるよう、単元の冒頭の「調べていこう」、単元末の「できるようになった」が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「問題を見つける」「計画を立てる」「学びをつなげる」などのマークを使って示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、生命尊重などを意識した箇所にはハートマークが示されている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、各学年で自然保護や生物愛護等に関する場面では、マークが表示されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「やってみよう！持続可能な社会をつくるために」では、自分たちの行動に取り入れたい工夫が例示されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「科学者の伝記を読もう」では、科学者の写真や偉業が掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスにおいて、問題を見つける場面では、「話し合い」が設けられている。 □ 第3学年では、生活科と関連した「風車で遊ぶ」という題材が設定されている。各学年の巻末では、次の学年で学習する内容の一部が掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年の巻末に、「伝える・聞く」のページが設けられており、予想したことや考えを伝えたり、聞いたりする例が示されている。 □ 伝統文化に関して、「文化・歴史」マークが設定されている。第6学年では、蘭学者が取り上げられている。また、第5学年では、天気のことわざが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第5学年では、「やってみよう！」で、たい児の成長の様子をグラフで表したり、体重を身近なものの重さに例えたりする活動が掲載されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年でこれまで学習したことを簡潔にまとめ、中学校への円滑な接続ができるよう設定されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気と私たちの生活」の単元の中で、プログラムやセンサーを利用して、LEDを点滅させるプログラムについて例示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、実験での試薬の色の変化などは、色の写真とともに色名が書かれている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 問題解決の過程がページの端にバーで示され、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。観察、実験の結果からわかったことと解説が分けて示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 巻末の実験器具の扱い方では、スモールステップに分け、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。 □ 巻頭の「科学の芽を育てよう」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が色付きで示されている。各ページの下には、問題解決の場面がマークで示されている。 □ 生活とのつながりや学びの活用について、多様な資料が掲載されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。科学者について掲載されている。 □ 巻末の「考えよう調べよう」では、理科の学習で大切な事柄について示されている。「できるだけ多くの人に見やすいよう配慮して作成しました」と記載されている。 □ 単元の導入ページでは、見開き一枚の大きな写真が掲載されている。単元名や大事な言葉は、フォントを変えたり太字にしたりして示されている。 | | |

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 教出 | 書名 | 未来をひらく小学理科 |
|---------------------------|--|----|------------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、学習問題について、学習した基本的な知識が「結論」として色付き枠で示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、比較により違いを見出し、問題を設定できるような教員の発問や、それに対する児童の考えが例示されている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関して、単元末に、日常生活と学習内容を関連させる「広がる学び」や「科学のまど」が設けられている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、飼育や栽培を扱う場面には、「地球となかよしマーク」を表示している。第6学年の巻末には「かんきょうミニずかん」が設けられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年巻末の「科学の研究者たち」では、世界の科学者とその偉業が紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、各学年の「資料」では、理科に関係する職業の話題が掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、キャラクターの主人公が他の児童と関わり合いながら学んでいく対話の例が示されている。 □ 各学年の巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、国語科での学習を活用する例が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第6学年では、「予想しよう計画しよう」で、キャラクターによる気づいたことの話し合いの様子が例示されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年では、日本の祭りが紹介されている。また、第4学年の「しりょう」では、中秋の名月について取り上げられている。 □ 体験活動に関して、各学年とも、児童の直接体験を重視し、観察や体験的な活動が取り上げられている。 □ 中学校への接続に関して、各学年とも、単元の冒頭の「学習のつながり」で、小学校の他学年や中学校との学習内容のつながりが示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「電気の利用」の単元の中で、「プログラムを作成して、コンピュータに命令をだしてみよう」が設けられている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、問題解決の過程の各ステップにマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭「学習の進め方」が設けられており、問題解決の順序が示されている。また、「ノートの取り方」では、「学習の進め方」に対応した例示がされている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、注意点等が、児童の発達段階に応じた内容で、それぞれの単元内に示されている。 □ 単元の中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について、児童と教員のキャラクターが対話を通して例示している。 □ 子どものキャラクターを通して、多様な「見方」を働かせ、また、教員のキャラクターの問いかけにより、多様な「考え方」を引き出す様子が例示されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 □ 各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。また、「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。 □ 「問題」や「結論」の部分には、それぞれ色が塗られ強調されている。 | | |

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 信教 | 書名 | 楽しい理科 |
|---------------------------|--|----|-------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関して、直接体験できない内容については、モデル実験が示されている。また、観察におけるスケッチのポイントが示されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関して、「考えてみよう」では、互いの予想や考えを練り合う場面が設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の育成に関して、児童が自ら発展的に学習を進めていく「はってん」が設けられ、発展的な内容を学習する校種や学年が示されている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、第6学年では、里山の自然を守る資料の中で、人里に出てきた動物との共生についての取組が取り上げられている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、「しりょう」では、地域の環境の保全に関する取組が取り上げられている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、「身近な植物や動物の様子」では、信州地域にみられる動植物の写真が複数掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童のキャラクターによる話し合い活動を通して、気づきや感想を出し合う学習場面の例が示されている。 □ 第3学年の音のせいしつでは、音楽科と関連した木琴や太鼓などの楽器を演奏する写真が複数掲載されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、第5学年では、人の誕生について、調べたことをクラスで発表する例が示されている。 □ 伝統文化に関して、第6学年では、天明3年の浅間山噴火の写生図が掲載されている。また、第3学年では、日がさやよしずが取り上げられている。 □ 体験活動に関して、第6学年では、単元で学んだことを生かしたものづくりが例示されている。 □ 中学校への接続に関して、第6学年では、「はってん」の中で、中学校で扱う学年や内容が示されている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、コンピュータを用いてプログラミングを扱う単元が設けられている。人がいる時だけ明かりがつく装置を作る例が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭に「理科の学習の進め方」が設けられており、問題解決の進め方や、教科書にでてくるマークについての説明が示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、「やってみよう自由研究」の小単元が設けられており、発達の段階に応じて、問題解決の手順や結果を記録する方法などが示されている。 □ 各学年とも、巻頭の「理科の学習の進め方」では、問題解決のプロセスに、各学年で主に育成を目指す問題解決の力や、主に働かせる見方・考え方が例示されている。 □ 第5学年のふりこの運動では、ふりこの観察から、ふりこの動きを決める条件を見つけ、条件を制御しながら問題を解決する実験が設定されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 □ 目次に「器具などの使い方」としてその学年で主に扱う器具とページが示されている。「カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています」と記載されている。 □ 数種類のマークを使い、学習内容や注意事項が示されている。 | | |

【資料Ⅰ】

※書名の表記は第6学年のものに統一

教科種目名<<理科(理科)>>

※詳細については、資料Ⅱ(理科-7～理科-13)を参照

| 発行者の略称 | 啓林館 | 書名 | わくわく理科 |
|---------------------------|---|----|--------|
| 1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 | <p>○「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「知識・技能」の習得に関連して、単元末の「まとめノート」の例示を通して学習を振り返る場面が設定されている。 □ 「思考力・判断力・表現力等」の育成に関連して、問題解決の過程の問題発見の場面、予想や計画の場面、考察の場面では、話し合い活動が設けられている。 □ 「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関連して、単元末に「もっと知りたい」や「活用しよう」が設けられている。 | | |
| 2 かながわ教育ビジョンとの関連 | <p>○ 教育目標(めざすべき人間力像)に掲げた、次の内容に沿っているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 「思いやる力」に関連して、「理科の広場」では、E S Dの視点から持続可能な社会をつくることについて考える内容が掲載されている。 □ 「たくましく生きる力」に関連して、各学年の巻末には、I C T機器を活用した調べ方や利用場面が紹介されている。 □ 「社会とかかわる力」に関連して、第4～6学年では、「くらしページ」が設けられ、くらしと防災や自然からの恵みについて掲載されている。 | | |
| 3 内容と構成 | <p>≪教科・種目共通部分≫</p> <p>○ 学習指導要領の改訂ポイントを踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、児童のキャラクターによる対話を通して学んでいく様子が例示されている。 □ 中学校マークや他教科関連マークが設定されている。各学年とも、巻末に「算数のまど」が設けられ、算数科との関連が示されている。 <p>○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 言語能力の育成に関して、各学年の巻末の「話し合いのしかた」では、話し合いのルールやポイントが示されている。 □ 伝統文化に関して、自然や人々の生活に関する昔からの知恵や工夫の紹介が取り上げられている。第6学年では、地震を語りつぐ「稲村の火」が掲載されている。 □ 体験活動に関して、各学年とも、単元の導入では、児童が身近に感じるものに着目させたり、遊んだりする内容を紹介する活動の場面が設けられている。 □ 中学校への接続に関して、「理科の広場」では、中学校マークが設けられ、中学校で学習する内容が取り上げられている。 □ 情報活用に関して、第6学年では、「プログラミングを体験しよう」が設けられている。巻末のプログラミング用シートとシールを使った学習例が示されている。 □ 児童の学習上の困難さへの対応に関して、巻末だけでなく、単元の中にも使用する器具の使い方が示されている。 <p>○ 児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 各学年とも、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で、問題解決のプロセスや、教科書で使われているマークについての説明が示されている。 <p>≪各教科・種目独自の観点≫</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 器具の使い方について、該当する単元だけでなく、巻末にもまとめている。器具の扱い方を振り返り、技能を身に付けられるようにしている。 □ 各学年とも、巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」では、科学者が具体例を交えながら、その学年で主に育てたい問題解決の力が示されている。 □ 各学年とも、「理科の考え方をはたらかせよう」や、「理科をふり返ろう」が設けられ、理科の見方や考え方が例示されている。 | | |
| 4 分量・装丁表記等 | <ul style="list-style-type: none"> □ 「A区分」と「B区分」が、各学年にはほぼ同ページ数取り上げられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 □ 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第3学年と第5学年の巻末には、取り外して野外で使える付録がある。 □ 「注意」を表すマークとして、「かん気」や「強い光」など数種類の具体的なマークが設けられている。 | | |

【資料Ⅱ】

教科種目名 《理科（理科）》

1 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連

| ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 | |
|---|---|
| 東書 | 「知識・技能」の習得を図るために、学習の前後で自分がどのように変わったかがわかるコーナーとして、第5学年と第6学年では、「学ぶ前の私」「学んだ後の私」が設定されている。また、器具の使い方等が巻末にまとめて掲載されている。 |
| 大日本 | 「知識・技能」の習得を図るために、学習問題について、「わかったこと」や「結論」に、内容の説明と結論とが区別して示されている。また、「使い方を覚えよう」では、器具の使い方が巻末にまとめて掲載されている。 |
| 学図 | 「知識・技能」の習得を図るために、学びを振り返り、自分の成長をわかるよう、単元の冒頭の「調べていこう」、単元末の「できるようになった」が設定されている。また、各学年で、道具の使い方が巻末にまとめて掲載されている。 |
| 教出 | 「知識・技能」の習得を図るために、学習問題について、学習した基本的な知識が「結論」として色付き枠で示されている。また、初めて器具を使用する場面では、器具の使い方が示されている。 |
| 信教 | 「知識・技能」の習得を図るために、直接体験できない内容については、モデル実験が示されている。 |
| 啓林館 | 「知識・技能」の習得を図るために、単元末の「まとめノート」の例示を通して学習を振り返る場面が設定されている。各学年とも、巻末に「器具の使い方」が掲載されている。 |
| ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 | |
| 東書 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。 |
| 大日本 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、問題解決のプロセスの中で、各学年で重点をおいて育成すべき問題解決の力が、★マークを使って示されている。 |
| 学図 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、「問題を見つける」「計画を立てる」「学びをつなげる」などのマークを使って示されている。 |
| 教出 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、比較により違いを見出し、問題を設定できるような教員の発問や、それに対する児童の考えが例示されている。 |
| 信教 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、「考えてみよう」では、互いの予想や考えを練り合う場面が設けられている。理科の用語や図・グラフ・表などを取り入れた学習のまとめ方が例示されている。 |
| 啓林館 | 「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るために、問題解決のプロセスにおける、問題発見の場面、予想や計画の場面、考察の場面では、話し合い活動が設けられている。 |
| ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮 | |
| 東書 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、「まとめ」の後に「次の問題を見つけよう」が設けられている。「考察しよう」では、自分の考えを振り返り、まとめるプロセスが示されている。 |
| 大日本 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に、学習した内容と身近な生活とのかかわりを考える「学んだことを生かそう」が設けられている。また、生き物の観察、実験についての注意事項を示す「かんきょう」マークが設定されている。 |
| 学図 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末の振り返りの場面には「できるようになった」が設けられている。また、生命尊重などを意識した箇所にはハートマークが示されている。 |
| 教出 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に、日常生活と学習内容を関連させる「広がる学び」や「科学のまど」が設けられている。 |
| 信教 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、児童が自ら発展的に学習を進める「はってん」が設けられ、発展の内容を学習する校種、や学年が示されている。 |
| 啓林館 | 「学びに向かう力・人間性等」の育成を図るために、単元末に「もっと知りたい」や「活用しよう」が設けられている。また、「自然を大切に」の環境マークが設定されている。 |

2 かながわ教育ビジョンとの関連

| ① [思いやる力] 他者を尊重し、多様性を認め合う、思いやる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 (共生、豊かな心、いのちの大切さ、生命の尊厳、人権教育、道徳教育など) | |
|--|--|
| 東書 | 「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「かんきょうマーク」が表示されている。観察、実験、栽培、飼育などで扱った動植物について、実験後も大切に育てていくこと等が記されている。 |
| 大日本 | 「思いやる力」に関連して、生命尊重や環境保全に関する場面では、「環境」マークが表示されている。また、第6学年の「生物と地球環境」など、持続可能な社会に関連する場面では「ESD」マークが表示されている。 |
| 学図 | 「思いやる力」に関連して、各学年で自然保護や生物愛護等に関する場面では、マークが表示されている。また、第3学年の巻末では、野外の危険な生物に対する注意を促すとともに、生き物の立場から考える文章が掲載されている。 |
| 教出 | 「思いやる力」に関連して、飼育や栽培を扱う場面には、「地球となかよしマーク」を表示している。学習や観察後の生き物の扱いについて例示し、生命尊重に関連させている。また、第6学年の巻末には、「かんきょうミニずかん」が設けられている。 |
| 信教 | 「思いやる力」に関連して、第5学年では、ニホンメダカの減少から生命尊重を考える資料が掲載されている。また、第6学年では、里山の自然を守る資料の中で、人里に出てきた動物との共生についての取組が取り上げられている。 |
| 啓林館 | 「思いやる力」に関連して、第6学年では、自然とともに生きる単元が設定されている。また、「理科の広場」では、ESDの視点から持続可能な社会をつくることについて考える内容が掲載されている。 |

| | |
|--|---|
| ② [たくましく生きる力] 自立した一人の人間として、社会をたくましく生き抜くことのできる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 | |
| (公共心、規範意識、責任感、国際化、情報化、食育、健康教育、コミュニケーション能力など) | |
| 東書 | 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「学びを生かして深めよう」では、SDGsが取り上げられている。また、ICT機器の活用場面が設定され、マークで示されている。 |
| 大日本 | 「たくましく生きる力」に関連して、英語マークを活用し、海外や地球規模の情報・資料など国際理解を深める内容が取り上げられている。また、ICT機器の活用場面が設定されており、マークで示されている。 |
| 学図 | 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年の「やってみよう！持続可能な社会をつくるために」では、自分たちの行動に取り入れた工夫が例示されている。また、食育と関連付けた学習の展開が示されている。 |
| 教出 | 「たくましく生きる力」に関連して、第6学年巻末の「科学の研究者たち」では、世界の科学者とその偉業が紹介されている。また、インターネットにつながっているコンピュータを活用する場面が設定され、コンピュータマークで示されている。 |
| 信教 | 「たくましく生きる力」に関連して、「しりょう」では、地域の環境の保全に関する取組が紹介されており、第6学年では、自分たちができることを調べる場面が設定されている。 |
| 啓林館 | 「たくましく生きる力」に関連して、各学年の巻末には、ICT機器を活用した調べ方や利用場面が紹介されている。また、図鑑や模型のほかに、コンピュータやビデオなどで調べることが取り上げられている。 |
| ③ [社会とかかわる力] 社会とのかかわりの中で、自己を成長させ、社会に貢献できる力を育てる上での題材例や工夫・配慮 | |
| (生きること、働くことの大切さ、自然や人とのふれあい体験、地域貢献活動、ボランティア活動など) | |
| 東書 | 「社会とかかわる力」について、第6学年の巻頭の「あんなところに理科！こんなところにも理科！」や、各学年の「理科のひろば」では、働く人からのメッセージや、職業とのつながり等について掲載されている。 |
| 大日本 | 「社会とかかわる力」について、各学年の「理科のたまてばこ」では、「理科としごと」マークが設定されており、理科に関する職業の話題が掲載されている。 |
| 学図 | 「社会とかかわる力」について、各学年の「科学者の伝記を読もう」では、科学者の写真や偉業が掲載されている。また、「仕事に生きる」では、理科に関する職業の話題が掲載されている。 |
| 教出 | 「社会とかかわる力」について、各学年の「資料」では、理科に関する職業の話題が掲載されている。 |
| 信教 | 「社会とかかわる力」について、身近な植物や動物の様子では、信州地域にみられる動植物の写真が複数掲載されている。 |
| 啓林館 | 「社会とかかわる力」について、第4～6学年では、特設小单元として「くらしページ」が設けられ、くらしと防災や自然からの恵みについて掲載されている。 |

3 内容と構成

○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮

| | |
|------------------------------------|--|
| ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 | |
| 東書 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、「レベルアップ理科の力」では、友達の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく対話の具体例が示されている。 |
| 大日本 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの「予想」「計画」「考察」などの場面では、友達の考えに触れ、自分の考えを見直しながら学習を深めていく、キャラクターによる対話の例が示されている。 |
| 学図 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、ハートマークで振り返りの視点が例示されている。また、問題解決のプロセスにおいて、問題をみつける場面では、「話し合い」が設けられている。 |
| 教出 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、单元ごとにキャラクターの主人公が、友達と関わり合いながら学んでいく対話の例が示されている。 |
| 信教 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、児童のキャラクターによる話し合い活動を通して、気づきや感想を出し合う学習場面の例が示されている。 |
| 啓林館 | 主体的・対話的で深い学びとなるように、問題解決のプロセスの中で、児童のキャラクターによる対話を通して学んでいく様子が例示されている。また、单元末の「まとめノート」では、学習を振り返る例が示されている。 |

| ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 | |
|---|--|
| (教科等横断的に学習を展開する上での工夫や配慮、小学校6年間や義務教育段階9年間の学びのつながりや系統性、基礎的な学習と発展的な学習との明確な区分けなど、子どもが学習を進めたり先生が指導計画を立てたりしやすいような工夫や配慮など) | |
| 東書 | 各学年の巻末に、「算数科で学んだことを活用しよう」が設定されている。また、「学んだことを使おう」では、他学年の学習やくらし等とのつながりが示されている。第6学年の「何がわかったかな」では、関連する中学校の内容が掲載されている。 |
| 大日本 | 第4学年では、折れ線グラフの表し方や読み方について、「算数で学ぶこと」で示されている。第3学年では、生活科と関連した「おもちゃづくり」が「生活科とのつながり」で示されている。各学年の「はってん」では、中学校の学習内容が「中学校で学ぶこと」に掲載されている。 |
| 学図 | 第3学年では、生活科と関連した「風車で遊ぶ」という題材が設定されている。各学年の巻末では、次の学年で学習する内容の一部が掲載されている。 |
| 教出 | 各学年の巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、国語科での学習を活用する例が示されている。また、第3学年の音の単元では、「音楽で学んだこと」が掲載されている。 |
| 信教 | 第3学年の音のせいしつでは、音楽科と関連した木琴や太鼓などの楽器を演奏する写真が複数掲載されている。また、「しりょう」の「はってん」として、中学校で扱う学年と内容が掲載されている。 |
| 啓林館 | 中学校マークや他教科関連マークが設定されている。第4学年の「これまでの学習につなげよう」では、複数の単元にまたがる学習内容をまとめて掲載されている。また、各学年とも、巻末に「算数のまど」が設けられ、算数科との関連が示されている。 |

○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮

| ③ 言語能力の確実な育成に資する工夫や配慮 | |
|---------------------------|---|
| 東書 | 題材の冒頭に、対話を通して思考を広げたり深めたりしていく様子がイラストや写真で例示されている。また、各学年の巻末には「話し合いのしかた」が掲載されている。学習問題の場面では、話し合いの様子から自分の意見をもてるよう設定されている。 |
| 大日本 | 学習問題を見つける場面では、児童の気づきの例が示されている。また、「考えよう」「考察」の場面では、キャラクターによる対話の例が示されている。学習したことを言語化する活動が取り入れられている。 |
| 学図 | 各学年の巻末に、「伝える・聞く」のページが設けられており、問題解決を進める中で、予想したことや考えを伝えたり、聞いたりする例が示されている。図などを使った伝え合いの例が取り上げられている。 |
| 教出 | 第6学年では、「予想しよう計画しよう」で、キャラクターによる気づいたことの話合いの様子が例示されている。また、第5学年では、「結果から考えよう」で、キャラクターによる考えを発表し合う様子が例示されている。 |
| 信教 | 各学年の「まとめよう」では、学習した内容を言語化し、図なども交えてまとめる例が示されている。また、第5学年では、人の誕生について、調べたことをクラスで発表する例が示されている。 |
| 啓林館 | 各学年の巻末の「話し合いのしかた」では、話し合いのルールやポイントが示されている。また、「問題をつかもう」や「予想・計画」を立てる場面では、話し合い活動が設定されている。 |
| ④ 伝統や文化に関する教育の充実に資する工夫や配慮 | |
| 東書 | 第5学年では、「夕焼け空は明日晴れ」という日本の昔から伝わることわざが取り上げられている。また、「理科のひろば」では、回復した多摩川の自然について掲載されている。 |
| 大日本 | 「伝統マーク」が設定されている。第6学年では、「りかのたまてばこ」で昔からの鉄づくりが、第5学年では、日本の伝統的な塩づくりが取り上げられている。 |
| 学図 | 「文化・歴史」マークが設定されている。第6学年では、「資料」に蘭学者について取り上げられている。また、第5学年では天気のことわざが取り上げられている。 |
| 教出 | 第6学年では、日本の祭りが紹介されている。また、第4学年の「しりょう」では、中秋の名月について取り上げられている。 |
| 信教 | 第6学年では、天明3年の浅間山噴火の写生図が掲載されている。また、第3学年では、日がさやよしずが取り上げられている。 |
| 啓林館 | 自然や人々の生活に関する話題を取り上げ、昔からの知恵や工夫の紹介が取り上げられている。第6学年では、「過去から未来へ」地震を語りつぐ「稲村の火」が掲載されている。 |

| ⑤ 体験活動の充実に資する工夫や配慮 | |
|------------------------|---|
| 東書 | 単元の冒頭で、単元に入る前に、遊びやマンガの読み物を通して体験活動を促す場面が設定されている。各学年の巻末には「しせつを活用しよう」が設けられている。また、学んだことを生かしたものづくりの例が掲載されている。 |
| 大日本 | 第6学年では、巻末に「科学館・博物館に行ってみよう」のコーナーが設けられている。また、各学年の「りかのたまてばこ」では、科学館での体験や地域の活動について掲載されている。また、各学年の裏表紙には、ジオパークが掲載されている。 |
| 学図 | 第5学年では、「やってみよう！」のコーナーで、たい児の成長の様子をグラフで表したり、体重を身近なものの重さに例えたりして、たい児の大きさを体感する活動の例が掲載されている。 |
| 教出 | 各学年とも、児童の直接体験を重視し、観察や体験的な活動が取り上げられている。また、その体験をもとに「願い」や「疑問」をもてるように設定されている。 |
| 信教 | 第6学年では、単元で学んだことを生かしたものづくりが例示されている。また、第4学年では、「とじこめた空気」について、児童の身の回りにある物で実験をしていく例が示されている。 |
| 啓林館 | 各学年とも、単元の導入では、児童が身近に感じるものに着目させたり遊んだりする内容を紹介する活動の場面が設けられている。また、「理科の広場」では、単元の学習内容に関連する体験活動が取り上げられている。 |
| ⑥ 学校段階間の円滑な接続に資する工夫や配慮 | |
| 東書 | 第6学年では、巻末の「何がわかったかな」で、第6学年で学んだ内容に合わせて「中学校1年で学習すること」が示されている。また、「理科のひろば」でも、「はってん」として中学校で学ぶ学年が示され、関連する内容が取り上げられている。 |
| 大日本 | 第6学年では、巻末の「中学生になったら…」で、中学校第1学年で学習する内容が示されている。また、各学年とも、「はってん」では、「中学校で学ぶこと」中学校で学習する内容が取り上げられている。 |
| 学図 | 第6学年では、巻末の「6年生でまなんだこと」から「もうすぐ中学生」では、小学校から中学校への学習のつながりが記されている。 |
| 教出 | 第6学年の「ステップアップ」では、中学校で扱う内容が示されている。また、各学年とも、単元の冒頭の「学習のつながり」で、小学校の他学年や中学校との学習内容のつながりが示されている。 |
| 信教 | 第6学年では、「はってん」の中で、中学校で扱う学年や内容が示されている。 |
| 啓林館 | 「理科の広場」では、中学校マークが設けられ、中学校で学習する内容が取り上げられている。 |
| ⑦ 情報活用能力の育成に資する工夫や配慮 | |
| 東書 | 第6学年では、「電気と私たちの暮らし」の単元の中で、「プログラミングをやってみよう」が設けられている。人感センサーを使って発光ダイオードを点灯、消灯するプログラムをつくる学習活動が例示されている。また、インターネットを使って学びを深める場面にはマークが示されている。各学年の最終ページには、マークを示したページとデジタルコンテンツの内容の一覧が記されている。 |
| 大日本 | 第6学年では、「私たちの生活と電気」の単元の中で、「プログラミングを体験してみよう！」が設けられている。明るさセンサーを使って暗い時だけ発光ダイオードを点灯するプログラムを学習活動が例示されている。また、インターネットを活用して学びを深める場面にはマークが示されている。各学年の巻末には、「コンピュータで調べよう」のページが設けられている。 |
| 学図 | 第6学年では、「電気と私たちの生活」の単元の中で、プログラムやセンサーの利用が取り上げられ、LEDを点滅させるプログラムについて例示されている。また、第5学年、第6学年の巻末の「調べる」では、インターネットの活用の仕方や注意が示されている。 |
| 教出 | 第6学年では、「電気の利用」の単元の中で、「プログラムを作成して、コンピュータに命令をだしてみよう」が設けられている。Scratchを用いて、ミニ信号機を動作を制御する例が示されている。また、インターネット活用して学びを深める場面には、コンピュータマークが設定されている。 |
| 信教 | 第6学年では、コンピュータを用いてプログラミングを扱う単元が設けられている。人感センサー付き照明器具を参考にして、人がいる時だけ明かりがつく装置を作る例が示されている。気象、天体などの単元では、インターネット、テレビ、新聞コンピュータを活用して情報を集めることが取り上げられている。 |
| 啓林館 | 第6学年では、「発電と電気の利用」の単元に続けて、「プログラミングを体験しよう」という小単元が設けられている。巻末に用意されているプログラミング用シートとシールを使った例が示されている。また、人感センサーや明るさセンサーを使って、必要な時だけ明かりがつくよう、ScratchやMeshでプログラミングを体験する学習が取り上げられている。 |
| ⑧ 児童の学習上の困難さに応じた工夫や配慮 | |
| 東書 | 配色やデザインについて、カラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。巻末に、これまで学習した器具等の使い方が順序立てて示されている。単語の途中で改行せず、文節で改行されている。 |
| 大日本 | 配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。ページ番号が丸枠で囲まれている。すべての児童にとって学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。実験、結果の部分など、問題解決の場面ごとに色が違い、区別がされている。単語の途中で改行せず、文節で改行されている。 |
| 学図 | 配色やデザインについて、「色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいよう配慮して作成しました」と記載されている。多様な色覚に対応した領域ごとの単元マークが設けられている。実験での試薬の色の変化などは、色の写真とともに色名が書かれている。「問題」や「わかったこと」は、文節での改行や箇条書きで記されている。 |
| 教出 | 配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。模様をつけることで、色以外でも区別ができるように示されている。また、すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、問題解決の各ステップにマークが用いられている。本文やキャラクターのふきだしなどの記述は、文節で改行されている。 |
| 信教 | 配色やデザインについて、カラーユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。すべての児童にとって、学習の見通しが立てられるよう、学習活動を示すマークが用いられている。器具の使い方が、項目立てて示されている。 |
| 啓林館 | 配色やデザインについて、メディアユニバーサルデザインの観点を取り入れられている。また、巻末だけでなく、単元の中にも使用する器具の使い方が示されている。 |

| ⑨ ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮 | |
|-----------------------------------|--|
| 東書 | 単元の冒頭の「レッツスタート！」ではこれから学ぶ内容が、「学んだことを使おう」では既習内容が示されている。問題解決のプロセスが紙面の端に「学びのライン」として、「問題をつかもう」から「まとめ」まで示されている。 |
| 大日本 | 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスが示されている。また、ページ上に、問題解決のプロセスが色分けして示されている。第5学年、第6学年では、結果、・考察、・結論が1ページにまとめられている。 |
| 学図 | 問題解決の過程がページの端にバーで示され、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。観察、実験の結果からわかったことと、解説等が分けて示されている。 |
| 教出 | 各学年とも、巻頭「学習の進め方」が設けられており、問題解決の順序が示されている。また、「ノートを取り方」では、「学習の進め方」に対応した例示がされている。 |
| 信教 | 各学年とも、巻頭に「理科の学習の進め方」が設けられており、問題解決の進め方や、教科書にでてくるマークについての説明が示されている。 |
| 啓林館 | 各学年とも、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」で、問題解決のプロセスや、教科書で使われているマークについての説明が示されている。また、巻末の「表す」では、ノートのまとめ方や伝えるときのまとめ方が例示されている。 |

| ⑩ ◇ 観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達の段階に即した工夫や配慮はなされているか。 | |
|--|---|
| 東書 | 観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、観察、実験の注意点等がそれぞれの単元内に示されている。また、巻末の器具の使い方や理科室の使い方では、発達の段階に応じた内容が示されている。 |
| 大日本 | 観察、実験に使う器具や薬品の使い方は、巻末に掲載されており、実験のページには巻末のページに導くページ数が書かれている。また、第4～6学年では、巻末の「私たちの理科室」で、発達の段階に応じた「理科室のきまり」が示されている。 |
| 学図 | 巻末の実験器具の扱い方では、スモールステップに分け、児童が自分で確認できるようチェック欄が設けられている。各学年の巻末の「理科室の使い方」では、発達の段階に応じた内容が示されている。 |
| 教出 | 観察、実験に使う器具や薬品の使い方や、注意点等が、児童の発達の段階に応じた内容で、それぞれの単元内に示されている。 |
| 信教 | 各学年とも、「やってみよう自由研究」の小単元が設けられており、発達の段階に応じて、問題解決の手順や結果を記録する方法などが示されている。 |
| 啓林館 | 器具の使い方について、該当する単元だけでなく、巻末にもまとめている。器具の扱い方を振り返り、技能を身に付けられるようにしている。 |

| ⑪ ◇ 観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。 | |
|---|--|
| 東書 | 巻頭の「理科の学び方」や、単元内の「レベルアップ理科の力」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が示されている。また、巻末には「学んだことを振り返ろう！」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について振り返るページが設定されている。 |
| 大日本 | 各学年とも、冒頭の「理科の学び方」では、問題解決のプロセスの中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が★マークとともに示されている。また、ページ上に、問題解決のプロセスが色分けして示されている。 |
| 学図 | 巻頭の「科学の芽を育てよう」では、各学年で主に育成を目指す問題解決の力が色付きで示されている。各ページの下には、問題解決の場面がマークで示されている。 |
| 教出 | それぞれの単元の中で、各学年で主に育成を目指す問題解決の力について、第3学年は「見つけよう」、第4学年は「予想しよう」、第5学年は「計画しよう」、第6学年は「結果から考えよう」で、児童と先生のキャラクターが対話を通して例示している。 |
| 信教 | 各学年とも、巻頭の「理科の学習の進め方」では、問題解決のプロセスに、各学年で主に育成を目指す問題解決の力や、主に働かせる見方・考え方が例示されている。 |
| 啓林館 | 各学年とも、巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」では、科学者が具体例を交えながら、その学年で主に育てたい問題解決の力が示されている。単元の学習では、ページの端に「フラッグ&ライン」として問題解決の流れが示されている。 |

| ⑫ ◇ 「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。 | |
|--|--|
| 東書 | 学びを生かすことや社会とのつながりを示す資料が掲載されている。単元内に「理科のミカタ」というコーナーを設け、学習の場面で働かせる理科の見方・考え方の例が繰り返し示されている。 |
| 大日本 | 学習問題とは別の自然の事物や現象にあてはめることで、学んだことを生かす場面が設定されている。 |
| 学図 | 生活とのつながりや学びの活用について、多様な資料が掲載されている。また、単元の冒頭では、その単元で働かせる「見方・考え方」が例示されている。 |
| 教出 | 子どものキャラクターを通して、多様な「見方」を働かせ、また、先生のキャラクターの問いかけにより、多様な「考え方」を引き出す様子が例示されている。 |
| 信教 | 第5学年のふりこの運動では、ふりこの観察から、ふりこの動きを決める条件を見つけ、条件を制御しながら問題を解決する実験が設定されている。 |
| 啓林館 | 各学年とも、「理科の考え方をはたらかせよう」や、「理科をふり返ろう」が設けられ、理科の見方や考え方が例示されている。また、「結果から考えよう」では、より科学的に話し合う活動が示されている。 |

4 分量・装丁・表記等

① ○各内容の分量とその配分は適切であるか。

| | |
|-----|---|
| 東書 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「たしかめよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。一定時間内に指導できる分量で、時数にゆとりをもって設定されている。 |
| 大日本 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「確かめよう」と「学んだことを生かそう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 |
| 学図 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「まとめてみよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。科学者について掲載されている。 |
| 教出 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「確かめ」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもって学習ができるような時数で設定されている。 |
| 信教 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末には「まとめよう」が設けられており、観察・実験の結果の整理や、考察が例示されている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 |
| 啓林館 | 「A区分」と「B区分」が、各学年にほぼ同ページ数取り上げられている。各単元末に「たしかめよう」「活用しよう」があり、補充的な問題と発展的な問題が設けられている。余裕をもった時数で、学習できるように設定されている。 |

② ○体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮

| | |
|-----|---|
| 東書 | 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。1年間の学習内容が見通せるよう裏表紙に目次が記載されている。軽量化した紙が使用されている。全ページにわたってカラーユニバーサルデザインが施されている。第6学年では、巻末に人体模型の工作の付録がある。 |
| 大日本 | 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。目次と理科の学び方が、見開きにまとまっており、1年間の見通しと学び方が一時に見られる。目次の単元の番号が、領域ごとに色分けされている。第5学年では「災害に備えようブック」など、各学年の巻末に、学年の学習内容に応じた付録がある。 |
| 学図 | ページを開かなくても1年間の学習内容が見通せるよう、裏表紙に目次が設けられている。また、裏表紙には長さをはかるためのものさしが設けられている。各単元の最初のページには、紙面の端に全学年の巻末の「考えよう調べよう」では、理科の学習で大切な事柄についてインデックスとともに示されている。 |
| 教出 | 各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。「ユニバーサルデザインフォントを使用しています」と記載されている。各学年とも、裏表紙に「安全の手引き」が記載されている。目次の単元の番号が、領域ごとに色分けされている。第3学年では、巻末に「生き物ミニずかん」として、図巻と観察で用いる定規の付録がある。 |
| 信教 | 各学年とも、目次には単元名とページに加えて、「器具などの使い方」に、その学年で主に扱う器具とページが示されている。1年間の学習を見通すページが設けられている。「カラーユニバーサルデザインに配慮して作られています」と記載されている。 |
| 啓林館 | 「ユニバーサルデザインフォントを採用しています」と記載されている。また、第3学年と第5学年の巻末には、取り外して野外で使える付録がある。 |

③ ○文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮

| | |
|-----|--|
| 東書 | 判型はA4であり、写真、図、文章等が大きく記載されている。各単元の導入のページでは、本文のすべての漢字にルビが施されている。 |
| 大日本 | 「問題」や「わかったこと」「結論」部分等は、それぞれ色が塗られている。写真や図版は角丸で切られている。 |
| 学図 | 単元の導入ページでは、見開き一枚の大きな写真が掲載されている。単元名や大事な言葉は、フォントを変えたり太字にしたりして示されている。 |
| 教出 | 「問題」や「結論」の部分は、それぞれ色が塗られ強調されている。 |
| 信教 | 数種類のマークを使い、学習内容や注意事項が示されている。 |
| 啓林館 | 「注意」を表すマークとして、「かん気」や「強い光」など数種類の具体的なマークが設けられている。 |

【参考】

| ① 題材に関連した神奈川県に関する文章や写真・グラフ等の掲載 | |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| 東書 | 第6学年では、三浦市にある馬の背洞門の土地の隆起が取り上げられている。 |
| 大日本 | 第5学年では、厚木市にある神奈川県総合防災センターが取り上げられている。 |
| 学図 | 第3学年では、小田原市にある県立生命の星・地球博物館が取り上げられている。 |
| 教出 | 第6学年では、箱根町にある大涌谷が取り上げられている。 |
| 啓林館 | 第6学年では、藤沢市にある江の島の土地の隆起が取り上げられている。 |

| ② URL、二次元コード等の掲載の有無 | 東書 | | | 大日本 | | | 学図 | | |
|---------------------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 |
| | | 有 | 有 | | 有 | 有 | | 有 | 有 |
| URL、二次元コード等の掲載の有無 | 教出 | | | 信教 | | | 啓林館 | | |
| | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 | 1・2年 | 3・4年 | 5・6年 |
| | | 有 | 有 | | 有 | 有 | | 有 | 有 |

| ③ 一冊ごとの重量 (g) | | | | | | | |
|---------------|-----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 発行者名 | 総冊数 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| 東書 | 4 | | | 406 | 483 | 434 | 515 |
| 大日本 | 4 | | | 429 | 461 | 398 | 462 |
| 学図 | 4 | | | 430 | 484 | 457 | 537 |
| 教出 | 4 | | | 465 | 539 | 495 | 524 |
| 信教 | 4 | | | 384 | 439 | 362 | 427 |
| 啓林館 | 4 | | | 395 | 414 | 412 | 488 |